

【前訂正(三月五日修正済)】

2頁 小学六年 ↓ 六歳児

3頁 二〇一八年(平成三〇)

↓ 二〇一九年(令和元)

まず私事乍ら、還暦を無事に迎えられる事は素直に喜びたい。

◇ ヴァラエティ
多様性番組『博士ちゃん』

(『テレビ朝日』 ↓ 以下、テレビ朝)

其の二月二五日放送分―恐らく一月七〜九日の間に収録したのだろう。一月二一日放送分の終わりには既に動画付で予告してたから―は、元NHK記者(以下、元N氏)をお迎えしての長丁場(三時間二四分枠CM込み)だった。其の前半は、元N氏と「世界文化遺産に詳しい高校二年男子」―大学受験に専念する為に

現役の「博士ちゃん」としては最後の出演と成る様で―に女性お笑い芸人二人組も加えての「高野山巡礼」。後半は、是迄に出演した「博士ちゃん」達の中から六人を予め選んだ上での、元N氏に拠る「ニュース解説講座」だった。―此処では主として、後者について感想を述べる事としたい。

今回参加した六人の「博士ちゃん」達は、「働く船」の小学五年男子・「生物進化」の中学二年男子・「貨幣」の小学五年男子・「昭和家電」の高校二年男子・「戦国」の中学一年女子と「古代日本史」の小学六年男子。政治に詳しい子供を新たに募る事は敢えて避けた様で。其の番組後半は、「経済(中

の「景気」)と「教育」に絞る格好で進められた。子供達を相手にどんな話題を扱うか、元N氏も相当悩んだろうが流石に、例えば「安倍晋三元首相暗殺と統一教会」「オリンピックと贈収賄」「性に関する障害(「LGBT」等)と差別」更に「ロシア対ウクライナ」：等と云った現在進行中の政治関連の話は敢えて「禁忌」とした様だ。亦、「コヴィッド・ナインティーン(新型コロナウイルス)」の話は不景気の一原因としてのみの言及に停まつた。

其の一方で、「貨幣」の小五男子から「防衛費」についての解説紛いの話―明らかに「敵基地攻撃能力」(又は「反撃能力」)に関する話だが、小五男子本人が付度を働かせて「:能力」と言うのを避けたのか?―が出て、亦、「古代日本史」の小六男子からは「元N氏の国政選挙への立候補の可否」についての質問が出た。元N氏は後者に対して「各党から依頼されてるが、皆断ってる」旨を回答したが、其にしても、前述の小五男子が『日経平均株価』と云う言葉を言い放ったのには内心、驚きを隠せなかったろう。

「お金が廻れば国の借入金も少なくなる(↑確かにそうかも知れない)」「年金を止めたら国は終わる(↑こちらには疑問を禁じ得ぬ)」旨の言葉を以て経済の話が締め括られた後、幾つかの質問―小六男子に拠る前述「選挙云々」の他、元N氏の

先天性脳障害(高機能自閉症)

者の眼から観たテレビ番組

付…佳羅研人名掲載基準

五〇年弱遅れの「博士ちゃん(?)」

『博士ちゃん』に想う事

其の式

佳羅春男

一九六三年(昭和三八年)三月出生

現役時代や少年期に関する事も
―を挟んで「教育」の話題へ。

司会のお笑い芸人「二人組中の「暈け」」に英語での自己紹介をさせて「マイ・ネーム・イズ(My name is)・「名・姓」」「↑「拙者は「姓・名」也」と云う意味だとは筆者も初耳!」の回答に対する「昭和ですね」に苦笑し、…締め括りは日本とアメリカ合衆国・双方の教科書の比較の話と成り、元N氏は「日本の教科書が合衆国と比べて薄いのは、文部科学省が学校教諭(先生)に「教える側で内容を膨らませて」旨の信用を置いてるから」旨を語ってだが、此処最近の学校に於ける諸々の事件の情報を見聞していると、日本の教科書も合衆国並みに「硬表紙に厚手・且つ貸与制」とせざるを得なく成るだろう―との想いを禁じ得ぬのは果たして、筆者だけだろうか。

以上、二月二五日・『博士ちゃん』

『博士ちゃん』拡大版の後半を観ての、
筆者・佳羅春男としての感想。



さて翌朝(二月六日)、同じテレ朝発の情報番組『サンデーライヴ』は、幕末から続く京都のとある和菓子店が完全受注で造り店頭でのみ販売していると云う「餡入り金平糖」を女性政治学者(本物の博士です。以下、A女史)に食べさせて締め括った。

其の食の場面を通して、筆者は「服飾モデルの如く綺麗で眩しい彼女の容姿と相成って」一瞬の衝撃そして嫉妬を否応無く感ずる中で「格差」の存在を改めて認識させられて間も無く、次の如き旨の無言の伝言を子供達へ向けて暗に発信してる―子供向けの書写動画や特撮活劇が次の番組として控えてる事も在り―かの様にも想えて来た。

此のお菓子は、食べる人を選ばず。本当に頑張ってる人だけ選ばれるお菓子

だ。A女史は一〇数年以上、政治の現場で働いて実績を積み上げて、今は大学の教授を務めてる。君達がこう云う高価なお菓子を食べたかったらまず、人間を磨きなさい。君達が食べるには、四〇年乃至五〇年、早い。若い内に食べたら、空腹精神が萎えて、向上心が育たなくなり得る。君達は、学校で既に人間関係に係る困難に直面してるかも知れないが、実社会に身を置いたら、そう云う類或いは其以上の困難は数え切れぬ程在る。そうした困難の群れに突き当たり一つ一つ、跳ね返して前へ進む中で意思疎通と技能に係る能力を磨き上げ、実社会を少しでも住み易くしようと言う想いを持って、自ら進んで重い責任を担って、其を全うし、実績を築いてから、自らの働きで得て且つ家族を養って余った金銭を持って当該

菓子店へ足を運びなさい。そうすれば、此の様な高価なお菓子を食べられる様に成る。

そして、「A女史とは「元N氏とも」真逆な自分は、こう云う高価なお菓子を食べる機会が在ったとしても辞退(遠慮)せざるを得まい」との想いを懐くと共に、「頑張ってる選ばれた人だけが得られる物は、人の世に在って寧ろ必要。其が人生の目標の一つにも成り得る。「博士ちゃん」達にとっては飽く迄四〇〜五〇年後に叶うか否かであって且つ、一競技のプロスポーツ選手を夢見て其を現実として叶え且つ名声を得るより困難、かも知れないが…。だからこそ是非、こう云う高価なお菓子を自力で買って食べられる様に成る為にも頑張ってる、人間を磨き上げて欲しい」―との想いをも禁じ得なくさせた。

幸い(?)三月一六日現在迄の所、「和菓子博士ちゃん」は

現れてない。其処で、「餡入り金平糖」を受注製造・販売して前赴・京都の和菓子店には、若し子供や『博士ちゃん』取材班が訪ねようとしたら是非、親切且つ丁寧に諭す姿勢を以て、前赴「此のお菓子…様に成る。」に引き続けて以下の旨を伝え追い返す事を強く強く望みたい。

是からも代々、引き継いで此のお菓子を造り続けていくからね。四〇〇五〇年後も必ず、待つてるからね。

——折角、筋金入りの政治学者を通して更に高まったろう印象イメージと品格を台無しとしない為に、また 社会的接縁役務亦、SNSを介して横行してるいたずら悪戯動画の「餌食」と成らぬ為にも、是非是非。



「人間を磨け」。——インターネット間 網サービス役務の『楽天』に拠る「『東京放送』(現『ティービーエス・ホールディングス』。以下、TBS)買収及び統合の未遂」(二〇〇五—二〇一

一。放送法改定で「認定放送持株会社」——テレ朝を含め既存民放キー鍵局は今全て、此の形態と成ってる——の制度が設けられる動機と成った)の件で、当時のTBSの番組審議会(番審長(確か、『太平洋セメント』相談役だったろうか)が楽天会長の「統合案文書」を観て「人間を磨け!」と言って同案を突き返した——と云う挿話エピソードを想い出した。

人間を磨くには結局、強固な——仕事や勉強に停まらず、生きる上での困難に直面してる時に腹を割って互いに本心本音を言い合い且つ助け合うだけの——人脈(＝基礎人脈)が要る。其はそして結局、学校に居る時代にしか築けない。学校を卒業してから実社会に居る中で形成する人脈は殆ど必ず金銭が絡み、真に助け合える関係には成り得ない。筆者は其の「基礎人脈」を築けなかった(後で詳述)。人間を磨く機会が得られなかった。其故だろう、学校を卒業してから

今以て、筆者には人脈が無い。

稀まれに一桁年齢も何人かは居るが、殆どが正ほんに「硝子の十代」の中に居る、「博士ちゃん」達と現副司会者(四月から、とある大学の法学部へ進学。彼等も裏では各々、筆者と同様の問題(後述)を抱えつつ何とか耐えて生きてるかも知れないが、そんな「硝子の十代」に居る今だからこそ正に、彼等が基礎人脈を築く格好の機会だ。互いの会話の間に金銭が絡む事は先ず無いから。

「博士ちゃん」達の間、私事の域でも仲良くしてる例も在る、との事。——其を足掛かりとして、番組出演を経て繋がって折角の「輪」を、各々が成長していく中で必ず突き当たる、生きる上での様々な困難を乗り越えるべく、腹を割って互いに本心本音を言い合い且つ助け合う、だけの強固な関係・即ち基礎人脈へと発展させる事。そして其の課程を、教育・医療と社

会福祉に対する理解力が在る法人を協賛(提供)者として確保した上で、「地上波テレビ——視聴率を絶えず気にする——だけでは無理が在ろうから』『BS朝日』や間インターネット網の『アベマTV』とも連携しつつ克明に綴り映像で紹介する——と云う事を通して、彼等「博士ちゃん」達各々の人生を支援して行く様、テレ朝グループには改めて強く望みたい。——無論、「暖かく見守る」姿勢を常に持ちつつ。



「高機能自閉症」(社会常識的な判断力は一通り備わっていて、表(光・陽)では特定の分野で卓越した能力を発揮する一方で、裏(影・陰)では「遅い」「独り言」「事が思い通りに成らず、或いは時間が迫ったりすると、痲癩かんしゃくを起こす(＝ぱにくる)」……と云った傾向が見られる)と云う、昭和時代迄は世間一般では飛び交う事が先ず無かった名の脳の障害を生まれ乍らにして抱える

筆者は、自身の親が同様の子を持つ親達に拠る任意団体とは縁を切った(診察に当たった医師の勧めで当地の任意団体に参加していたが、

「障害の中身が違う子を抱える親同士が互いに傷を舐め合う格好で前へ進むのか」旨の疑問を覚え、筆者が小学二年生に成った頃に同団体を脱退)事に加え、学校では同年代の子等に拠る苛めが日常茶飯事で、友を得る精神的なゆとりなんか無い儘、大学へは行けずに学校時代を終えた。「博士ちゃん」の如きテレビ番組も無い時代。今は自前の拠頁を造って公表してる「自主憲法案」等の政治関連の具体策を人前で披露する機会にも巡り逢えず、親の縁故で印刷業に就職するも資材の無駄使いを多く出して二〇年余りで破綻を迎え、職業安定所に拠る障害者雇用の紹介を経ての期限非正規掛持ち(運送会社並びに社会福祉法人の二箇所)で月一三万円前後の収入)で何とか生きてる

が、手先の動きが遅いが故に会社では迷惑を掛けてる。余談乍ら、一箇所(月数万円だから、クレジットカード)信用証票は利用出来ない。

前回(二月三日付)を細かくする格好で筆者自身の裏ばかり描いたが、そんな筆者が、「博士ちゃん」達を含め今の子供達に對して出来る事は、彼等にとつての「他山の石」更に「反面教師(『しくじり先生』?)」に徹する姿勢を以て、彼等との對話を交えつつ、自らの失敗を余す事無く語り尽くす事しか無い——と筆者自身は考えてる。——そう。筆者は、次四つの条件が叶うならば、「しくじり先生」を買って出る用意が在る。

- (1) 筆者の実名・住所と顔を出さず、音声は加工を加える事。
- (2) 筆者の居住地にて別室を確保の上で、其処からの中継で画像と音声を送る事。
- (3) 「博士ちゃん」達を当日の収録に親同伴で参加させ(二〇組

以上。可能な限り男女半々で、彼等との会話を交えつつ番組収録を進める事。

(4) 収録年月日を放送映像の最初又は最後に字幕で表示する事。一方、専ら論理の強調を目的とする字幕(出演者の発言に沿つての表示)は使わない事。



「話が戻るが、」四〇〜五〇年後。元N氏も、A女史も、そして筆者も、「更に現司会者(お笑い芸人二人組)も?」先ず生きては居ない。一方、今の「博士ちゃん」達は還暦前後を迎えてる。各々、持ち前の能力を生業として最大限に發揮し此の国・日本を繕い住み易くする為に貢献して地位を勝ち取った上で、各々が働いて得た金銭で完全受注の高価なお菓子を買って持ち寄って一堂に集い、其を食べ乍ら、各々が経験した様々な困難(↑乗り越えると必ず、楽しい想い出に変わる!)と並行して、筆

者を含めた先人達の言葉についても語り合う様に成れば幸い。



佳羅研究所では、以下に示す

「人名掲載基準」を敢えて制定し、当所が公開を前提として運営する媒体(印刷物並びにインターネット上のホームページ(含む「ブログ」))に於ける個人名の表記を自主規制して居ります。是は、「個人情報保護」や「誹謗中傷及び名誉棄損の予防」も然る事乍ら、「例え世間的に実名で広く知れている人であっても、特定の伝達媒体では自らの実名を敢えて明らかにしない・したくない」場合も在り得る事を考えた為です。

佳羅研究所 人名掲載基準

一 佳羅研究所及び其の構成員の名義に拠り運営する媒体に於いては、「個人情報保護」並びに「誹謗中傷及び名誉棄損の予防」と云う観点から、個人の氏名は、次三つの何れ

かに該当する場合を除き、仮名又は匿名とし、本人〔又は親族或いは所属先たる法人〕が書面（封書又は電子私信）を通して実名表記を希望した場合についてのみ、特例を適用の上で実名（婚姻している女性については、旧姓を通称として用いている場合を含む。以下同じ）を以て表記するものとする。

①国会の議長又は副議長・内閣総理大臣又は国務大臣・最高裁判所の裁判官並びに都道府県知事の各現職及び経験者。

②殺害（傷害致死及び危険行為致死を含む）を伴う刑事事件の被（容）疑者（但し、警察又は検察機関が指名手配又は逮捕の事実を發表して以降に限る）。

③死後一週間以上を経た、物故者たる民間の有識者。

二 世襲の君主及び其の親族については成年後に限り、前述の①と看做し、特例を適用する。

三 外国の元首（大統領等）については、前述の①を準用する。



此の「…基準」に拠り、本書に於いては、一故人（安倍晋三…元首相）を除いて個人名を全て仮名又は匿名と致しました。尚、

此の「…基準」は今後、補充且つ改定する事が在り得ます。

佳羅研究所が運営する媒体に於いて実名表記を希望される方は、電子メールにて其の旨をお寄せ下さい（「アドレス」は当頁左下の枠内を参照の事）。特例を適用の上で改めて、実名で表記させていただきます。

■本書の作成に際しては、『テレビ朝日』ホームページと『ウイキペディア』ア・フリー百科事典』を主に参照致しました。

佳羅放送戯評
『博士ちゃん』に想う事
其の式

2023年（令和5年）3月17日発行

発行者 佳羅研究所

<http://www.kar2007el.ecweb.jp/>

お問い合わせ先（電子メール）

s9p-14@kar2007el.ecweb.jp